

2.5 実数の大小関係

実数には大小関係がある．実数の大小関係を不等号を用いて表す．

例えば、実数 x が 7 以下ということは、 x は 7 より小さいかまたは x は 7 に等しいということである：

$$x \leq 7 \iff x < 7 \text{ または } x = 7 .$$

例えば、実数 x が 7 以下ということは、 x は 7 より小さいかまたは x は 7 に等しいということである：

$$x \leq 7 \iff x < 7 \text{ または } x = 7 .$$

[法則 2.5.1] 実数 a と b について

$$a \leq b \iff a < b \text{ または } a = b .$$

例えば、実数 x が 7 以下ということは、 x は 7 より小さいかまたは x は 7 に等しいということである：

$$x \leq 7 \iff x < 7 \text{ または } x = 7 .$$

[法則 2.5.1] 実数 a と b について

$$a \leq b \iff a < b \text{ または } a = b .$$

この法則により、実数 a と b について、 $a < b$ と $a = b$ のどちらかでも成り立てば $a \leq b$ である。例えば、 $2 < 3$ なので $2 \leq 3$, $5 = 5$ なので $5 \leq 5$.

例えば、実数 x が 7 以下ということは、 x は 7 より小さいかまたは x は 7 に等しいということである：

$$x \leq 7 \iff x < 7 \text{ または } x = 7 .$$

[法則 2.5.1] 実数 a と b について

$$a \leq b \iff a < b \text{ または } a = b .$$

この法則により、実数 a と b について、 $a < b$ と $a = b$ のどちらかでも成り立てば $a \leq b$ である。例えば、 $2 < 3$ なので $2 \leq 3$, $5 = 5$ なので $5 \leq 5$.

[定理 2.5.1] 任意の実数 a と b について、

$$a < b \text{ ならば } a \leq b , \quad a = b \text{ ならば } a \leq b .$$

例えば、実数 x が 7 より小さくないということは、 x は 7 以上ということである：

$$x \not< 7 \iff x \geq 7.$$

例えば、実数 x が 7 より小さくないということは、 x は 7 以上ということである：

$$x \not< 7 \iff x \geq 7 .$$

[法則 2.5.2] 実数 a と b について、

$$a \not< b \iff a \geq b .$$

$$a \not\leq b \iff a > b .$$

例えば、実数 x は 7 より小さいかまたは 7 以上である： $x < 7$ または $x \geq 7$.

例えば、実数 x は 7 より小さいかまたは 7 以上である： $x < 7$ または $x \geq 7$.

[定理 2.5.2] 任意の実数 a と b について、 $a < b$ または $a \geq b$.

証明 $a < b$ または $a \not< b$, 法則 2.5.2 により $a \not< b$ ならば $a \geq b$, 従って $a < b$ または $a \geq b$. (証明終了)

[法則 2.5.2] 任意の実数 a, b について、 $a \not< b \iff a \geq b$.

例えば、実数 x が 7 より小さいならば x は 7 と等しくない: $x < 7$ ならば $x \neq 7$.

例えば、実数 x が 7 より小さいならば x は 7 と等しくない: $x < 7$ ならば $x \neq 7$.

[定理 2.5.3] 任意の実数 a と b について, $a < b$ ならば $a \neq b$.

証明 定理 2.5.1 により, $a = b$ ならば $a \geq b$; 法則 2.5.2 により, $a \geq b$ ならば $a \not< b$. 従って, $a = b$ ならば $a \not< b$. 対偶をとると, $a < b$ ならば $a \neq b$. (証明終了)

[定理 2.5.1] 任意の実数 a, b について, $a = b$ ならば $a \geq b$.

[法則 2.5.2] 任意の実数 a, b について, $a \geq b \iff a \not< b$.

例えば、実数 x について、 $x \leq 7$ かつ $x \geq 7$ ならば、 $x = 7$.

例えば、実数 x について、 $x \leq 7$ かつ $x \geq 7$ ならば、 $x = 7$.

[定理 2.5.4] 任意の実数 a と b について、 $a \leq b$ かつ $a \geq b$ ならば、
 $a = b$.

証明 $a \leq b$ かつ $a \geq b$ と仮定する. $a \leq b$ なので、法則 2.5.1 により $a < b$ または $a = b$. $a \geq b$ なので、法則 2.5.2 により $a \not< b$. このように、 $a < b$ または $a = b$ で、 $a \not< b$ なので、 $a = b$. (証明終了)

[法則 2.5.1] 任意の実数 a, b について、 $a \leq b \iff a < b$ または $a = b$.

[法則 2.5.2] 任意の実数 a, b について、 $a \geq b \iff a \not< b$.

不等号が表す大小関係と加法・乗法とについて、次の法則が基本になる。

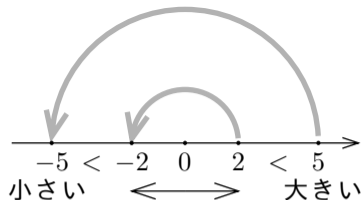
[法則 2.5.3] 任意の実数 a, b, c について、

$$a < b \text{ ならば } a + c < b + c ,$$

$$a < b \text{ かつ } c > 0 \text{ ならば } ac < bc .$$

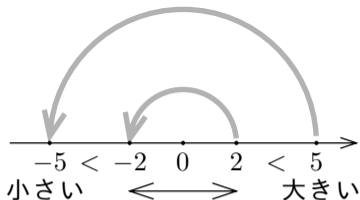
2 と 5 との大小を比べると

$2 < 5$, -2 と -5 との大小を比べると $-2 > -5$; このように, 不等式の両辺の符号 (正か負かということ) が反対になると大小関係も反対になる.



2 と 5 との大小を比べると

$2 < 5$, -2 と -5 との大小を比べると $-2 > -5$; このように, 不等式の両辺の符号 (正か負かということ) が反対になると大小関係も反対になる.



[定理 2.5.5] 任意の実数 a, b について,

$$a < b \text{ ならば } -a > -b \text{ , } \quad a \leq b \text{ ならば } -a \geq -b \text{ .}$$

[定理 2.5.5] 任意の実数 a, b について,

$$a < b \text{ ならば } -a > -b \text{ , } \quad a \leq b \text{ ならば } -a \geq -b \text{ .}$$

証明 例として “ $a < b$ ならば $-a > -b$ ” を証明する.

実数 a, b について $a < b$ と仮定する. 法則 2.5.3 により

$$a + (-a - b) < b + (-a - b) \text{ ,}$$

この不等式の左辺は $a + (-a - b) = -b$ で右辺は $b + (-a - b) = -a$ なので,

$$-b < -a \text{ ,}$$

つまり $-a > -b$.

(証明終了)

[法則 2.5.3] 任意の実数 a, b, c について, $a < b$ ならば $a + c < b + c$.

[定理 2.5.6] 任意の実数 a, b, c について,

$$a < b \text{ かつ } c < 0 \text{ ならば } ac > bc .$$

証明 実数 a, b, c について $a < b$ かつ $c < 0$ とする. $c < 0$ なので, 定理 2.5.5 により $-c > -0$ つまり $-c > 0$. 従って, $a > b$ かつ $-c > 0$ なので, 法則 2.5.3 により $a \cdot (-c) < b \cdot (-c)$ つまり $-ac < -bc$. 定理 2.5.5 により $-(-ac) > -(-bc)$ つまり $ac > bc$. (証明終了)

[定理 2.5.5] 任意の実数 a, b について, $a < b$ ならば $-a > -b$.

[法則 2.5.3] 任意の実数 a, b, c について, $a < b$ かつ $c > 0$ ならば, $ac < bc$.

[定理 2.5.5] 任意の実数 a, b について, $a < b$ ならば $-a > -b$.

等号付きの不等号についても同様のことが成り立つ（証明は省く）。

[定理 2.5.7] 任意の実数 a, b, c について,

$$a \leq b \text{ ならば } a + c \leq b + c \text{ ;}$$

$$a \leq b \text{ かつ } c \geq 0 \text{ ならば } ac \leq bc \text{ ;}$$

$$a \leq b \text{ かつ } c \leq 0 \text{ ならば } ac \geq bc \text{ .}$$

[定理 2.5.8] 任意の実数 a と b について,

$$a > 0 \text{ かつ } b > 0 \text{ ならば } ab > 0 ,$$

$$a > 0 \text{ かつ } b < 0 \text{ ならば } ab < 0 ,$$

$$a < 0 \text{ かつ } b > 0 \text{ ならば } ab < 0 ,$$

$$a < 0 \text{ かつ } b < 0 \text{ ならば } ab > 0 .$$

証明 一部のみ証明する. 他の部分も同様に証明できる. 法則 2.5.3 により

$$0 < a \text{ かつ } b > 0 \text{ ならば } 0b < ab ,$$

$0b = 0$ なので

$$a > 0 \text{ かつ } b > 0 \text{ ならば } ab > 0 .$$

定理 2.5.6 により

$$a < 0 \text{ かつ } b < 0 \text{ ならば } ab > 0b ,$$

$0b = 0$ なので

$$a < 0 \text{ かつ } b < 0 \text{ ならば } ab > 0 . \quad (\text{証明終了})$$

[法則 2.5.3] 任意の実数 a, b, c について, $a < b$ かつ $c > 0$ ならば, $ac < bc$.

[定理 2.5.6] 任意の実数 a, b, c について, $a < b$ かつ $c < 0$ ならば, $ac > bc$.

等号付きの不等号についても同様のことが成り立つ（証明は省く）。

[定理 2.5.9] 任意の実数 a と b について,

$$a \geq 0 \text{ かつ } b \geq 0 \text{ ならば } ab \geq 0 ,$$

$$a \geq 0 \text{ かつ } b \leq 0 \text{ ならば } ab \leq 0 ,$$

$$a \leq 0 \text{ かつ } b \geq 0 \text{ ならば } ab \leq 0 ,$$

$$a \leq 0 \text{ かつ } b \leq 0 \text{ ならば } ab \geq 0 .$$

[定理 2.5.10] 任意の実数 a について $a^2 \geq 0$.

証明 定理 2.5.9 により,

$$a \geq 0 \text{ かつ } a \geq 0 \text{ ならば } aa \geq 0 .$$

つまり, $a \geq 0$ ならば $a^2 \geq 0$. また, 定理 2.5.8 により,

$$a < 0 \text{ かつ } a < 0 \text{ ならば } aa > 0 .$$

つまり, $a < 0$ ならば $a^2 > 0$. 定理 2.5.1 により $a^2 > 0$ ならば $a^2 \geq 0$ なので, $a < 0$ ならば $a^2 \geq 0$.

このように, $a \geq 0$ ならば $a^2 \geq 0$, $a < 0$ ならば $a^2 \geq 0$. 定理 2.5.2 により $a \geq 0$ または $a < 0$; $a \geq 0$ のときも $a < 0$ のときも $a^2 \geq 0$.

(証明終了)

[定理 2.5.9] 任意の実数 a, b について, $a \geq 0$ かつ $b \geq 0$ ならば, $ab \geq 0$.

[定理 2.5.8] 任意の実数 a, b について, $a < 0$ かつ $b < 0$ ならば, $ab > 0$.

[定理 2.5.1] 任意の実数 a, b について, $a > b$ ならば $a \geq b$.

[定理 2.5.2] 任意の実数 a, b について, $a \geq b$ または $a < b$.

[定理 2.5.11] 任意の実数 a について,

$$a^2 \leq 0 \iff a^2 = 0 \iff a = 0 .$$

証明 定理 2.5.10 により $a^2 \geq 0$ なので, $a^2 \leq 0$ ならば, 定理 2.5.4 により $a^2 = 0$, 定理 2.1.2 により $a = 0$. 逆に, $a = 0$ ならば, $a^2 = 0$ なので, 定理 2.5.1 により $a^2 \leq 0$. 故に

$$a^2 \leq 0 \iff a^2 = 0 \iff a = 0 . \quad (\text{証明終了})$$

[定理 2.5.10] 任意の実数 a について $a^2 \geq 0$.

[定理 2.5.4] 任意の実数 a, b について, $a \leq b$ かつ $a \geq b$ ならば, $a = b$.

[定理 2.1.2] 任意の数 a について, $a^2 = 0 \iff a = 0$.

[定理 2.5.1] 任意の実数 a, b について, $a = b$ ならば $a \leq b$.

1.6節で次のことを述べた：述語 A と B について，“ $A \iff B$ ” のとき “ A でない $\iff B$ でない”.

[定理 2.5.12] 任意の実数 a について,

$$a^2 > 0 \iff a^2 \neq 0 \iff a \neq 0 .$$

証明 定理 2.5.11 により

$$a^2 \leq 0 \iff a = 0 .$$

これより

$$a^2 \not\leq 0 \iff a \neq 0 .$$

法則 2.5.2 により,

$$a^2 > 0 \iff a^2 \not\leq 0 \iff a \neq 0 . \quad (\text{証明終了})$$

[法則 2.5.11] 任意の実数 a, b について, $a^2 \leq 0 \iff a = 0$.

[法則 2.5.2] 任意の実数 a, b について, $a > b \iff a \not\leq b$.

[定理 2.5.13] 実数 a, b について,

$$a^2 + b^2 \leq 0 \iff a^2 + b^2 = 0 \iff a = 0 \text{ かつ } b = 0 .$$

証明 定理 2.5.10 により $b^2 \geq 0$, 定理 2.5.5 により $-b^2 \leq 0$. $a^2 + b^2 \leq 0$ ならば, $a^2 \leq -b^2 \leq 0$, 定理 2.5.11 により $a = 0$. 同様に, $a^2 \geq 0$ より $-a^2 \leq 0$ なので, $a^2 + b^2 \leq 0$ ならば, $b^2 \leq -a^2 \leq 0$, 定理 2.5.11 により $b = 0$. 逆に, $a = 0$ かつ $b = 0$ ならば, $a^2 + b^2 = 0$ なので, 定理 2.5.1 により $a^2 + b^2 \leq 0$. (証明終了)

[定理 2.5.10] 任意の実数 a について $a^2 \geq 0$.

[定理 2.5.5] 任意の実数 a, b について, $a \geq b$ ならば $-a \leq -b$.

[定理 2.5.11] 任意の実数 a について, $a^2 \leq 0 \iff a = 0$.

[定理 2.5.1] 任意の実数 a, b について, $a = b$ ならば $a \leq b$.

[定理 2.5.14] 任意の実数 a について,

$$a > 0 \text{ ならば } \frac{1}{a} > 0, \quad a < 0 \text{ ならば } \frac{1}{a} < 0.$$

証明 “ $a > 0$ ならば $\frac{1}{a} > 0$ ” を証明する.

実数 a について $a > 0$ と仮定する. 定理 2.5.3 により $a \neq 0$. 定理 2.5.1 により $a \geq 0$. 仮に $\frac{1}{a} \leq 0$ とすると, 定理 2.5.9 により $a \cdot \frac{1}{a} \leq 0$ つまり $1 \leq 0$; これは矛盾である. よって $\frac{1}{a} \not\leq 0$, 法則 2.5.2 により $\frac{1}{a} > 0$ (証明終了)

[定理 2.5.3] 任意の実数 a, b について, $a > b$ ならば $a \neq b$.

[定理 2.5.1] 任意の実数 a, b について, $a > b$ ならば $a \geq b$.

[定理 2.5.9] 任意の実数 a, b について, $a \geq 0$ かつ $b \leq 0$ ならば, $ab \leq 0$.

[法則 2.5.2] 任意の実数 a, b について, $a \not\leq b \iff a > b$.